

○ 平成 27 年度事業実施状況概要

1 事業実施概要

平成 27 年 3 月に発足した「財源基盤の確立及び中長期計画の策定検討委員会」（以下、「財中委」とする。）は、拡大委員会 3 回を含む全 12 回の開催をとおして、前期を平成 28～30 年度の 3 年とし、後期を平成 31～33 年度の 3 年と位置づけた中長期計画を報告書として取りまとめた。様々な課題が山積しており行動計画の具体化には至らなかったが、今後 6 年間の「経営の安定化」と「組織の体制強化」について改めて方針を整理した。

2 本年度の重点計画に基づく事業の実施状況

(1) 地域における公益的な活動の推進

東社協では「東京都地域公益活動推進協議会」及び「広域連携事業（はたらくサポート東京）」の検討を進めているが、加入法人の活動参画に関する手順等については未定である。一方、世田谷区社協が推進する「社会福祉法人地域公益活動協議会」については、区内に本部を置く社会福祉法人を中心に組織化の準備が整い、当法人も積極的な参画を予定した。

また、これまで築いてきた地域との連携実績を今年度は随時更新する一覧表で「見える化」を図り、今後の活動方針策定の資料として活用することとした。世田谷施設においては、地域のお祭りの他、防災訓練や交通安全に関わるイベント等へ積極的に協力し、年間の活動は延べ 1124 時間（うち勤務時間内が 417 時間、有志としての活動が 707 時間）の実績となった。併せて、法人本部企画部長が今年度より地元砧町町会の理事を務めることとなり、地域との情報共有がより一層促進した。

(2) 法人組織の体制強化

法人が大切にしている普遍的原理を全職員が業務に活かし、多くの人々に共感や賛同と参画が得られるよう法人理念の再構築を図った。平成 26 年 11 月から経営会議と全施設長会議で協議を重ね、6 月には「共に生きる～感じる・創る・つながる～」を法人理念として掲げることを確認した。7～9 月にかけて全職員を対象に理事長を交えた 5 回のワークショップを開催し、新しい理念を各現場で活かすための意見交換を行った。年度末には、「感じる」「創る」「つながる」の各項の実践内容を表記した法人パンフレットの試作版を作成した。

また、「財中委」を前年度末から 12 回開催したが、うち 3 回の協議は委員のみに留めず、理事長・常務理事・全施設長を交えた拡大会議とした。8 月からは委員長が経営会議に出席し、協議の進捗状況を報告するとともに、様々な課題への取り組み方針を明確にし、新しい理念に基づいた中長期計画を報告書として整理した。さらに、全施設長会議、MS 検討委員会及び教育委員会は、予定どおり場所を世田谷・板橋・町田・港の 4 拠点に移動して開催した。関係役職員の現場視察の機会が増え、経営活性化のためのコミュニケーションが強化された。

(3) 法人運営の透明性の確保

いわゆる内部留保の明確化については、現時点における内部留保額から事業継続財産を控除すると赤字となり、再投下計画の策定が義務付けられる法人には該当しないことが見込まれた。今後の施設の建替えや大規模な修繕に必要な自己資金については、「財中委」においても重要な検討課題であり、現在の各事業の拡張や縮小・廃止、新たな事業開始等の方向性を明確にすることとした。

(4) I S O 9001:2008 サーベイランス

10月1～2日にサーベイランスを受審した結果、「軽微な不適合」1件と「要観察」3件の指摘を受けた。いずれも発展的に解決を図り、認証は継続された。改正されるISO9001:2015については、標準化推進事務局員が研修に参加し、MS検討委員会で情報を共有した。

(5) 職員確保と人材育成

世田谷施設においては、総務部事務員と砧ホームの介護部部長及び副主任介護職員が、介護福祉士の養成校に出向いて採用に向けた積極的な活動を推進した。併せて、養成校の学生に対しては、卒業生である現場の介護職員が実体験で得た仕事のやりがい等を説明する機会を設け、今後も定期的な取組みとして継続することを確認した。残念ながら、これらの活動が新年度の採用には直結しなかったが、実習施設として養成校との連携を強化することができた。また、総務部と事業現場との一体的な採用活動は、相互の業務の理解を促進し、今後の採用活動の活性化に役立つものとなった。

また、法人主催の階層別研修を、従来の推薦による受講ではなく必修と位置づけて開催した。採用後1年未満の職員が、「新入職員研修(4月)+フォローアップ研修(10月)」を、6月には全中間管理職が「リーダーシップ向上研修」を、11月には全施設長等が「評価者研修」を受講した。さらに、年2回開催していた「事例・研究発表会」をコンクール形式の「事例・研究発表研修」とし、より多くの職員が参加可能な研修と位置づけて創立記念日に開催した。理事長以下施設長12名が審査を行い、優秀な発表に対して「理事長賞」「優秀賞」「特別賞」を授与した。いずれも法人職員として相互の研鑽を図る良い機会となった。

(6) 首都圏直下型地震への対策

今年度より、事業所在地において「震度4で事業所長が、震度5で副主任以上の幹部職員が、震度6以上で全職員が、自身の安全を確保したうえで、原則即時参集する基準」の運用を開始した。世田谷施設においては、9月13日(日)に阪神淡路大震災の発災時刻を想定し、6時から15時の時間帯で、①夜勤者等による「利用者の安否確認・建物等の簡易点検」、②勤務休日者の「インターネット掲示板を活用した『自身の安否及び到着見込み時刻の書込み』」、③参集した職員による『非常用トイレ設置』及び『非常備蓄搬出と炊出し』等の訓練を行った。対象職員121名中、通常勤務者が23名、残り98名中54名が参集(55%)し、自転車と徒歩が半々で約8割の職員が2時間以内に到着した。当日は地元町会役員11名の協力も得ることができた。港区立障害福祉保健センターにおいても、2月11日(土)午前8時30分に震度6強の地震発生を想定し、職員の自動参集訓練を実施した。センターに到着した職員から、①建物の損傷状況確認と災害対策本部設置準備を行い、順次参集してきた職員を、②利用者の安否確認、③備蓄食料の炊き出し、④災害用トイレ設置及び⑤応急救護所設置等の訓練を実施した。対象職員83名中、当日の勤務者6名を除く77名中67名(87%)が参加した。

いずれにおいても、緊急時に社会福祉法人として、近隣の被災者支援にも全力で取り組むための意識醸成を促進した。年度末には法人共通の「大震災発生時のBCP(事業継続計画)策定指針」を定め、次年度は事業所毎に実情に即したBCPを策定することとした。

(7) 各事業所の主な事業計画の実施状況

① 世田谷施設

本館及び別館屋上等の防水工事は、補助金等の経費確保に伴う課題が解決しなかったため、次年度以降に繰り越すこととした。

また、高齢施設の大型厨房機器入替え計画は、過去15年間の実績と今後15年間の見通しについて一覧に纏め長期計画化を図った。

② 世田谷更生館

就労移行支援事業では、退所した1名を除く7名全員（前年度に一般就労した1名を含む）が一般就労を実現した。就労継続支援事業B型では、工賃向上に専心した結果、目標工賃額を上回る平均時給換算297円の工賃支給となった。

事業全体での対定員利用率は、就労移行支援による多くの一般就労実現により、目標値には至らなかったが、3期連続して黒字となり、次年度に向け予定どおり目標工賃達成加算（Ⅱ）等の各種加算要件を充足した。

③ 友愛園

利用者の高齢化・重度化に伴う免疫力低下による感染症拡散対策として、友愛園1F居室部分を静養室に用途変更した。併せて老朽化の著しい厨房設備の入替を推進した。

利用者確保52名、通年利用者数50名を目標に関係機関との連携強化に努めたものの、結果的には1名増の47人とどまった。重度者・重複障害者の受け入れを可能とするため、事業の活動内容及び職員構成を再編し、介護力強化を図ることとした。

④ 東京聴覚障害者支援センター

センター運営委員会の開催を行い、その中で就労継続支援B型事業の新規開始に向けた意見を基に準備をしてきた。東京都と協議した結果、平成27年10月より事業の開始をした。

東京都より、民間移譲後の事業評価審査を受け、5年間の事業継続更新が認められた。

⑤ コーポ友愛

重要課題として取り組んだ、入居者の確保は、年度末迄に入居者18名、利用率90%を維持し事業運営は安定した。また、外部委託していた清掃業務を非常勤職員の雇用に変更し、コスト削減を図った。

⑥ 友愛デイサービスセンター

利用者の重度重症化に伴い体調不良による欠席も多く、利用率は目標を下回った。出席率の向上による経営の安定化は難しい状況にある。重度重症化は日常支援にも影響し、高床で腹臥位療法や静養する利用者の増加により、狭隘な環境の中での安全管理が重要課題となっている。少しでも高床のスペースを拡張するため、高床に隣接する収納棚を撤去した。

人材育成では、勤務体制上研修参加も難しい状況にあるが、可能な限りの参加を促し、また、職員が自ら学んだ知識を教示する自主勉強会を毎月実施し、職員のスキルアップに努めた。

⑦ 友愛ホーム

支援員業務の見直しを行い非常勤がローテーション業務入りし、常勤、非常勤の隔てなく利用者への均一したサービスを安定的に提供できる体制を築くことができた。

一方、多数の利用者が退所する状況は今年度も継続し、人の入れ替わりが激しく施設の中が落ち着かない状態が続いてしまった。退所分の空床を埋める努力をしたが、新規入所者の獲得が追い付かず、収支状況は赤字となった。

⑧ 友愛荘

ベッド稼働率は、短期利用者の増加等により順調に推移していたが、11月と12月に入院者が重複したため96.6%となった。収支は、介護報酬引き下げの影響を受けたが委託業務の見直しや経費の削減に取り組んだ結果、僅かではあるが黒字となった。

工事関係では、建物の経年劣化による水漏れ修繕、9月にボランティア室エアコンの買い替え、11月に災害用備蓄倉庫屋根を葺き替えた。

⑨ 砧ホーム

年間ベッド稼働率を99.5%とし約660万円の黒字となった。リスクマネジメントでは、「介

「護安全週間」の取組みの発表が東京都保健福祉局長賞を受賞した。看取りケアでは、従来の指針を見直すと共に、これまでの実績をご家族に報告した。持ち上げないケアでは、リフトインストラクターを新たに3名養成し、リフトを主体とする福祉用具活用のための勉強会を開催しその定着を進めた。人材育成では、介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価者を7名に増員した。

⑩ 砧デイサービスセンター

利用者数が減少し、収支差額は約1100万円の赤字となり経営面で大変厳しい結果となった。これに重ねて大きな事故を起こしたことで、その補償が発生しさらに経営が逼迫した。対策として、事故予防では「ヒヤリハットの抽出強化」、「全職員による事故ゼロ宣言唱和」を、稼働率向上では、「居宅介護支援事業所訪問による営業活動」、「問い合わせに対する迅速な対応の強化」を徹底した。平成28年度より義務化される「運営推進会議の開催」を、7月と1月に実施し町会役員や区職員等を招き、当センターの活動状況を報告し事業の透明性をアピールした。なお、延長サービスは本年度をもって終了した。

⑪ 港区立障害保健福祉センター

ア 運営管理部

懸案であった係員毎の業務を相互理解する取組は、計画に沿って概ね達成しつつある。また、委託業者内部監査管理手順書の整備も進み、これに基づき昨年9月には内部監査を実施することができた。

イ 地域活動支援センター等

センターにサービス等利用計画の作成を依頼した港区民は、平成26年度末101件であったが平成27年度末には274件に増加し、平成28年度からは相談員1名増員されるなど、着実に拡大している。この他にも専門相談やいわゆるなんでも相談（一般相談）についても様々な専門職が関わり相談支援の充実を図っている。今後も地域の中で果たす役割をしっかりと担っていく体制を構築していく。

また障害者の自由な居場所作り、ボランティアと区民との交流、情報提供等を目指したサロン事業も、着実に関わりを広げている。

ウ こども療育パオ

療育見学会は、幼稚園の夏休み期間にも設定した結果、計52名の職員が来園した。また幼稚園・保育園現任職員対象の実習希望も増え、専門機関として地域との連携の強化を図ることができた。利用希望が増え続けており、来年度は1クラス増設が急遽決まり、準備に入っている。

エ 工房アミ

利用者の増加に伴い、障害特性の幅が広がってきたが利用者個々の障害特性に応じた課題別活動に取り組み、効果的な運動活動を実施することができた。

オ みなとワークアクティ

商品のブランド化は、包装資材、パンフレット、ポップ等を変更し終了した。トータルコーディネートしたことで企業からの好評価を頂き、ギフトの大量注文が増えてきている。

生産活動全体としては、売上12,000,000円を目標に取り組み、12,660,851円と達成することができた。平均工賃は26,325円となり、前年度より7,784円上回るすることができた。

カ 障害者レスパイト事業等

レスパイト事業の利用が多く、緊急一時保護の利用が困難になる状況がみられたため、緊急一時保護の利用枠を確保する取り組みを開始し、緊急一時保護希望者が確実に利用できる

ようになった。

⑫ 砧地域包括支援センター

地域包括ケアの地区展開モデル事業が2年目となり、相談拡充事業の充実を図り、また、まちづくりセンター・社会福祉協議会との三者連携を強化させた。平成28年度からの介護予防・日常生活支援総合事業の本格実施に向けて、介護予防ケアマネジメントや自主グループの立ち上げ支援をおこなった。

⑬ 第一作業所（友愛書房）

大量発注を得るべく関係部署に照会をするなど、売上向上に努め一応の成果はあったが、前年に僅かばかり届かなかった。

⑭ 砧介護保険サービス

事業の質の向上を目指し、特定事業所加算取得に向け要件に該当する業務や研修へ参加したが、職員の配置等の体制が整わなかったため取得時期を次年度以降とした。なお、収支差額は約145万円の黒字となった。

3 平成27年度 社会福祉法人友愛十字会「方針書（目標）」に対する進捗状況

区分	方針No	方針内容	対象	目標	
				管理項目	目標値と結果
経営	A1	地域における公益的な活動の推進	法人本部 全事業	地域の福祉ニーズの把握	中長期計画への反映 済
	A2	法人組織の体制強化		法人理念の再構築 定期的な現場視察等	
	A3	法人運営の透明性の確保		福祉サービスに再投下可能な財産額の検証	
B 品質	B1	ISO 9001:2008 サーベイランス受審	全事業	要観察事項の改善 友愛十字会標準の再構築	規格適合 済
C 人材	C1	職員確保と人材育成 「採用・育成・評価」のあり方について	法人本部 全事業	方針の整理 法人内部教育の再編	部分的に実践 評価 済
D その他	D1	首都圏直下型地震への対策	法人本部 全事業	法人BCPの策定	策定指針初版を完成 済

4 各種計画の状況

(1) 主な会議の開催状況（年度当初の計画を見直した。以下は法人全体に関わる会議のみ記載した。）

名称	目的	開催頻度	開催実績
理事会	法人の経営上の重要事項に関する審議議決を行い、業務執行の基本方針を決定する。	年3回	4回
評議員会	同上	同上	3回
経営会議	法人の経営上の重要事項に関する課題別作業委員会を発足し、その報告を基に業務執行の基本方針を審議する。	毎月	13回
経営委員会	法人の経営上の重要事項に関して審議する。	適時	3月に3回
全施設長会議	法人各施設の運営に関する重要事項の審議と各施設間の情報交換及び連絡調整並びに ISO 9001:2008 要求事項の「マネジメントレビュー」	毎月	12回
MS（マネジメントシステム）検討委員会	業務の標準化に関する計画立案と推進	年6回	6回
教育委員会	職員教育に関する計画立案と推進	年6回	5回
苦情解決委員会	各施設が提供する福祉サービスに係る利用者等からの苦情の円満解決を図る	適時	なし

(2) 防災訓練の状況

月	世田谷施設		東京聴覚障害者支援センター		友愛荘		港区立障害保健福祉センター	
	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所
4	昼間	友愛園	昼間	A棟2階居室	夜間	図上訓練	昼間	消防設備 避難路確認
5	夜間	砧ホーム	昼間	消火訓練(中庭)	夜間	厨房	昼間	(各事業所での避難訓練)
6	昼間	更生館	夜間	B棟2階居室	夜間	消防設備 避難路確認	昼間	4階(火災想定)
7	夜間	友愛デイ	昼間	講話・防災ゲイゴ	夜間	2階(火災想定)	昼間	2階(火災想定)
8	昼間	コーポ友愛	昼間	B棟2階喫煙室	夜間	3階(火災想定)	昼間	5階(火災想定)
9	昼間	友愛ホーム	昼間	区民防災訓練参加	夜間	地域合同防災訓練	昼間	1階(地震・津波想定)
10	夜間	友愛園	昼間	講習(図上訓練)	夜間	消防設備 避難路確認	夜間	8階(夜間出火想定)
11	昼間	砧ホーム	昼間	B棟2階ボイラー	夜間	マニュアル確認 避難誘導	昼間	全域(総合訓練)
12	昼間	砧デイ	夜間	A棟3階居室	夜間	実後訓練、避難路確認	昼間	6階(火災想定)
1	昼間	友愛デイ	昼間	B棟2階居室	夜間	火災想定 自主訓練	昼間	連絡訓練(一斉メール)
2	夜間	コーポ友愛	昼間	B棟2階娯楽室	夜間	図上訓練	昼間	震災職員参集訓練
3	夜間	友愛ホーム	昼間	町会防災訓練参加	夜間	消防設備 避難路確認	昼間	参集訓練振り返り

世田谷施設は成城消防署、東京聴覚障害者支援センターは志村消防署、友愛荘は忠生消防署の協力を得て実施した。なお、友愛荘と東京聴覚障害者支援センターは9月に、それぞれ図師町内会・町田福祉園、板橋区・地元町会と、世田谷施設は9月に砧町会と、港区立障害保健福祉センターは11月に同一建物のシティハイツ竹芝と合同での防災訓練を実施した。また、2月に職員参集訓練を実施し、炊き出し訓練や非常用トイレ設置訓練を行った。なお、世田谷施設の自衛消防隊は、9月に成城消防署が実施する「自衛消防訓練効果確認審査会」に参加し、優秀賞を受賞した。

(3) 教育の状況(年度当初の計画を見直し、本年度の教育委員会主催の研修は以下のとおりである。)

分類	内容	参加者数	開催日
階層別教育	新入職員研修 2日 新入職員フォローアップ研修 1日 原則平成26年4月2日から平成27年4月1日の間に採用した常勤職員を対象に、法人理念等の周知と協働意識の醸成を目的に開催した。	24名 20名	4/2～3 10/30
	リーダーシップ向上研修 1日(講師委託) 副主任以上の中間管理職を対象に、リーダーとして求められる役割を理解しコミュニケーション能力・指導育成力の強化を目的に開催した。	30名	6/30
	評価者研修 1日(講師委託) 全施設長及び事業所内部長職を対象に、人事考課制度の基本の確認、目標管理のポイントの把握、面談の進め方を理解・体得することを目的に開催した。	15名	11/5
事例(研究)発表研修	業務改善事例や研究成果の発表を通じて、職員の専門技術や業務改善・改革に向けた資質の向上を図った。以下は発表題目と受賞結果である。 ①利用者の大幅減少に伴う事業収入安定への取り組み～選ばれる施設を目指して～(世田谷更生館) ②利用者本位の支援を追及して～3年間の取り組みと利用者・職員の変化～(友愛荘) ③『介護安全週間』の事故抑止効果に関する研究～「安全は全てに優先する」からの報告～理事長賞受賞(砧ホーム) ④介護保険法改正に伴う砧デイの方向性～「個別機能訓練Ⅱ」を選んだ理由～(砧デイサービスセンター) ⑤障害者の自立と社会参加～地域で生きがいを持つということ～(港C地域活動支援センター) ⑥心理士の定期的なクラス参入がもたらした変化～障害児通園施設における実践から～特別賞受賞(こども療育パオ) ⑦不適合サービス分析から予防への取り組み(工房アミ) ⑧まちづくりセンター・社会福祉協議会との連携強化～定例連携会議運営の取り組み～(砧あんしんすこやかセンター) ⑨チェックリストの活用について(砧介護保険サービス) ⑩地域連携への一足(ひとあし)～世田谷区立小学校での福祉体験学習の取り組み～優秀賞受賞(世田谷施設・相談員等)	18名 審査員12名	9/25

(4) 苦情解決の状況

「友愛十字会苦情解決規定」の定めに相当する苦情の申入れは無かった。

(5) 「友愛十字会標準（Y S）」の整備状況

単位：件数

大分類 番号	内 容	26年度末 保有件数	本年度の整備状況			27年度末 保有件数
			制定	改定	廃止	
0	総 則	6	0	3	0	6
1	品質マネジメントシステム	28	0	22	0	28
2	業務管理マニュアル	143	3	8	0	146
3 A	指導票・解説書類(施設別)	855	17	63	27	845
4	規程・規則類	57	1	12	0	58
合 計		1089	21	108	27	1083

第1 法人本部

1 役員・評議員等の状況

(1) 役員及び評議員

評議員の板橋区社会福祉協議会常務理事・事務局長の岩崎道博氏が平成27年3月31日付で退任され、後任の浅井浩を評議員に4月1日付で選任した。また、社会福祉法人港区社会福祉協議会常務理事兼事務局長の家入数彦氏を同日付で評議員に選任した。

区 分	定員数	平成26年度 末の現在員数	平成27年度の異動		平成27年度 末の現在員数
			新任員数	退任員数	
理 事	11	11	—	—	11
監 事	2	2	—	—	2
評 議 員	23(12)	22(11)	2(2)	1(1)	23(12)

「評議員」欄は併任する理事数を含むものとし、括弧内は評議員の専任者を再掲した。

(2) 総裁及び顧問等

平成27年度末現在員	総 裁	顧 問	参 与
	1	—	1

(3) 平成27年度末の役員等の氏名(敬称略)

区 分	氏 名
総 裁	瑤子女王殿下
会 長	佐々木 典夫
理事長・評議員	小林 和弘
理 事・評議員	池堂 政満 三根 武 山崎 敏 遠藤 浩
	福田 督男 川崎 裕康 新垣 洋
常 務 理 事	墨野倉 克則 金井 博 (11名)
監 事	多久島 耕治 高梨 智弘 (2名)
評 議 員	井手 精一郎 高木 金次 寺山 久美子 内藤 壽昭
	高橋 輝雄 金井Pak雅子 桂川 直幸 江藤 文夫
	佐藤 健二 若林 貴美江 浅井 浩 家入 数彦 (12名)

(4) 職員の採用及び退職等

事業所名	職員区分	平成26年度		平成27年度			
		年度末(3月31日)		4月1日～3月30日の		年度末(3月31日)	
		人員数	3月31日付 退職及び 異動減員	採用及び 異動増員	退職及び 異動減員	人員数	3月31日付 退職及び 異動減員
法人本部事務局	常	8名		2名	2名	8名	
	非	1名	1名	2名	1名	1名	1名
世田谷更生館	常	10名		4名	2名	12名	1名
	非			1名	1名	名	
友愛園	常	16名			2名	14名	1名
	非	5名		1名		6名	2名
東京聴覚障害者支援センター	常	10名		2名	2名	10名	
	非	12名		1名	3名	10名	1名
コーポ友愛	常	1名				1名	
	非			1名		1名	
友愛デイサービスセンター	常	11名		1名	2名	10名	1名
	非	5名		1名	3名	3名	
友愛ホーム	常	12名		3名	1名	14名	1名
	非	4名		3名	3名	4名	2名
友愛荘	常	36名	1名	9名	3名	41名	4名
	非	15名	2名	11名	6名	18名	2名
砧ホーム	常	33名	1名	5名	4名	33名	1名
	非	10名	1名	1名	2名	8名	4名
砧デイサービスセンター	常	17名	1名	3名	2名	17名	1名
	非	9名	4名	2名	1名	6名	
港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター	常	18名	1名	2名	名	19名	3名
	非	5名	1名	2名	1名	5名	
工房アミ	常	30名	2名	7名	3名	32名	1名
	非	2名				2名	
こども療育パオ	常	27名	2名	6名	3名	28名	3名
	非	8名	4名	5名	2名	7名	2名
みなとワークアクティ	常	7名	1名	3名	2名	7名	3名
	非					名	
砧地域包括支援センター	常	6名		2名	1名	7名	
	非					名	
友愛書房	常					名	
	非	3名				3名	
砧介護保険サービス	常	1名				1名	
	非					名	
合計	常	243名	9名	49名	26名	254名	20名
	非	79名	13名	31名	23名	74名	14名

備考 1 各施設の職員数欄の上段は常勤職員、下段（網掛け部分）は非常勤職員を掲載している。

2 法人内の施設間の異動は、便宜上表中の「採用」欄に「転入」を、また、「退職」欄に「転出」を含めて計上した。

2 役員会の状況

(1) 第1回 理事会・評議員会

- ① 開催日 平成27年5月29日(月)
- ② 場 所 成城ホール・集会室C・D (世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議 案
 - 第1号議案 平成26年度事業報告(案)について
 - 第2号議案 平成26年度各会計収支決算(案)について
 - 第3号議案 諸規程の一部改正(案)について
 - (1) 給与規程
 - (2) 非常勤職員就業規則
 - (3) 港区立障害保健福祉センター地域活動支援センター運営規程
 - (4) こども療育パオ運営規程

(2) 第2回 理事会

- ① 開催日 平成27年9月10日(木)
- ② 場 所 社会福祉法人友愛十字会 別館2階会議室 (世田谷区砧3-9-11)
- ③ 議 案
 - 第1号議案 友愛園別館屋上等防水改修工事に係る入札条件等の決定について

(3) 第3回 理事会・第2回 評議員会

- ① 開催日 平成27年11月20日(金)
- ② 場 所 成城ホール・集会室C・D (世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議 案
 - 第1号議案 平成27年度事業報告(中間)(案)について
 - 第2号議案 平成27年度各会計収支補正予算(案)について
 - 第3号議案 諸規程の一部改正(案)について
 - (1) 組織及び職制規程
 - (2) 役員等の報酬及び給与に関する規程
 - (3) 就業規則
 - (4) 非常勤職員就業規則
 - (5) 育児休業規程
 - (6) 経理規程
 - (7) 東京聴覚障害者支援センター運営規程
 - 第4号議案 友愛園別館屋上等防水改修工事に係る入札条件等の決定について

(4) 第4回 理事会・第3回 評議員会

- ① 開催日 平成28年3月29日(火)
- ② 場 所 成城ホール・集会室C・D (世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議 案
 - 第1号議案 平成27年度各会計収支補正予算(案)について
 - 第2号議案 平成28年度事業計画(案)及び平成28年度各会計収支予算(案)について
 - 第3号議案 諸規程の一部改正(案)について

- (1) 就業規則
- (2) 給与規程
- (3) 非常勤職員就業規則
- (4) 経理規程
- (5) 文書取扱規程
- (6) 砧介護保険サービス運営規程

第4号議案 施設長の配置換え、任免及び再雇用について

3 本部事業等の実施状況

(1) 障害者支援普及事業

- ① 第40回を記念する合同運動会を世田谷区総合運動場体育館で開催した。総裁瑤子女王殿下が実行委員長としてご臨席になり、御自ら第40回の記念イベントで「純国産ボイス」（日体大OB所属の歌手グループ）とともに可憐な歌声をご披露いただいた。9主催団体と5協力団体が参加して、個人戦6、団体戦3の各競技を行った。また、40回を記念して「主催団体の紹介パネル」と初回からの「プログラム」が一覧できるよう場内に掲示した。併せて、参加賞のスポーツタオルには、参加団体名と前総裁のイメージイラスト等を配し、紅白饅頭とともに配付し喜ばれた。皇宮警察本部音楽隊の素晴らしい演奏、学習院大学応援団の迫力ある応援合戦やチアリーダーによる素晴らしい演技が運動会に華を添えた大会であった。

ア 期 日 平成27年10月4日（日）

イ 会 場 世田谷区総合運動場体育館

ウ 主 催 合同運動会実行委員会

友愛十字会、世田谷区身体障害者福祉協会、ガールスカウト東京都第61・72団、ボーイスカウト世田谷第10団、世田谷区I K K福祉協会、日本体育大学社会体育研究会、慶應義塾大学ライチウス会、学習院大学応援団、世田谷区社会福祉協議会

エ 協力団体 柏・絆の会、皇宮警察本部 皇宮警察音楽隊、皇宮警察本部 皇宮警察学校、公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会、純国産ボイス

オ 後 援 世田谷区

カ 参加者 665名 うち当法人参加者は198名（30%）であった。

当法人の内訳 利用者（障害者）53名・（高齢者）66名、職員79名

- ② 「第49回宮様チャリティボウリング大会」及び「第39回障害者ボウリング大会」への協力
瑤子女王殿下がご臨席になられた。当法人は、社団法人 日本ボウリング場協会主催の宮様チャリティボウリング大会及び障害者ボウリング大会に協力した。一般の部では、男子254名と、女子113名が参加した。障害者の部では、男子101名、女子25名が、プロボウラーから指導を受けた後、障害者の大会でハイレベルな熱戦を展開した。終始、和やかな雰囲気であった。

ア 期 日 平成27年11月29日（日）

イ 会 場 品川プリンスホテルボウリングセンター（港区高輪4-10-30）

ウ 主 催 日本ボウリング場協会（顧問 佐々木典夫会長）

エ 協 力 社会福祉法人 友愛十字会

オ 参加者 北海道、東北、関東、東海、関西、四国、九州から各地区の子選通過選手及び団体推薦、障害者推薦の367名が決勝戦に臨み、障害者は関東から九州までの126名が

参加した。うち、当法人からは、27名(21%)が参加した。

カ 優勝者 宮様チャリティボウリング大会

男子の部 相田 祐樹(山形) 220点

女子の部 渡邊 美和(福岡) 172点

障害者ボウリング大会

男子の部 菅野 孝彦(一般) 421点(2ゲーム)

女子の部 中島 深雪(社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会)

387点(2ゲーム)

③ 機関紙「ゆうあい」

3月にNo.43を発行した。

(2) その他の事業

世田谷施設、板橋区の東京聴覚障害者支援センター、町田市の友愛荘及び港区立障害保健福祉センターは、それぞれ地域の町内会・商店会、後援会、ボランティア、施設利用者家族等の参加を得て、次の事業を実施した。

① 世田谷施設

法人及び後援会が「盆踊り大会」と「友愛ふれあい祭り」を砧町町会・地元商店会の協賛で開催し、多数の地域住民と利用者家族等が参加した。併せて、地域で開催された各種イベントに、職員有志が積極的に参加し出店や準備作業等の協力を努めた。

ア 盆踊り大会

(ア) 日 時 7月22日(水) 18:30~21:00

(イ) 場 所 世田谷施設中庭他

(ウ) 主 催 友愛十字会、後援会

(エ) 協 賛 砧町町会、TMC通り商店街

(オ) 参加者 1,751名(外部のみ)

イ 友愛ふれあい祭り

昨年度に引続き、山野小学校の合唱披露等により多くの来場者を迎えることができた。

(ア) 日 時 11月3日(火・祝日) 10:00~15:00

(イ) 場 所 世田谷施設中庭他

(ウ) 主 催 友愛十字会、後援会

(エ) 協 賛 砧町町会、TMC通り商店街

(オ) 参加者 853名(外部のみ)

ウ 感謝の集い

開催が3回目となった今回は、前回同様、民謡の講師ボランティアによる歌の披露や、新規にビンゴ大会を実施するなどにより、和やかな交流が図られた。

(ア) 日 時 12月11日(金) 15:30~17:00

(イ) 場 所 世田谷施設本館1階第2多目的室

(ウ) 主 催 友愛十字会、後援会

(エ) 参加者 招待者111名中40名

エ 合同防災訓練

消防計画及び地域との相互防災活動協定に基づき成城消防署の指導の下、砧町町会とのを

実施した。初めての職員参集訓練において砧町町会役員の協力を得ることができ、さらに、砧町自治会、大蔵住宅自治会がそれぞれ開催した防災訓練や、山野小学校での避難所開設訓練等では、砧あんしんすこやかセンターを中心に積極的な連携に努めた。なお、10月から地元の成城消防団第5分団三部の団員として地域連携検討委員長が入団し、地域防災活動における当法人の役割等について認識を高めることができた。

② 世田谷施設以外

ア 東京聴覚障害者支援センター

- (ア) 盆踊り大会 7月25日(土)
- (イ) 餅つき大会 1月10日(日)
- (ウ) ボランティアの受入れ(学習、盆踊り・踊り指導、外出支援、ほか諸行事協力)

イ 友愛荘

- (ア) 地域交流納涼盆踊りの集い 8月5日(水)
- (イ) ボランティアの受入れ(クラブ活動、盆踊り・踊り指導、他行事支援)

ウ 港区立障害保健福祉センター

- (ア) ヒューマンぷらざまつり 10月25日(日)

4 事業所設備の整備状況

本年度、本部及び施設において助成金等で整備を行った状況は、次のとおりである。

(1) 助成金等による整備

本年度は助成金等による整備はなかった。

(2) その他の整備(100万円以上の事業)

(単位：千円)

区分	施設整備・設備の名称	設備内容	契約者	所要額
全施設	サーバー一式更新	OSのサポート終了、ハードの耐用年数経過による更新	株式会社ワイイーシーソリューションズ	7,273
世田谷施設	電話機リース更新	リース期限到来による新規設備による更新	株式会社泰成通信	4,906
世田谷施設	門扉改修工事	世田谷施設門扉改修工事	海藤工務店	2,906
世田谷高齢者施設	厨房機器購入	スチームコンベクション及びガス炊飯器の購入	タニコー株式会社	1,500
友愛園	1階静養室の整備	居室を静養室に用途変更のため	海藤工務店	1,283
友愛荘	屋根葺替・リフォーム工事	男子更衣室屋根及び女子更衣室天井	(株)イーグル建創	1,402
砧デイサービスセンター	浴室大型サーモスタット取替工事	入浴サービス継続のため	(株)ユーコーコーポレーション	1,042
計	7件			20,312

5 事業所の概況

(平成28年3月31日現在)

区分	施設の種別 (開設年月日)	所在地 (電話番号)	土地	建物	利用者 定員	
社会福祉施設	世田谷更生館 (館長 大平敏夫)	指定障害福祉サービス (S37. 9. 28)	〒157-0073 東京都世田谷区砧 3-9-11 法人本部 (代表電話) (03-3416-3164)	2,157.36 ^{m²}	60	
	友愛園 (園長 新垣 洋)	障害者支援施設 (S53. 5. 1)		2,087.94	60	
	コーポ友愛 (ホーム長 大平敏夫)	身障福祉ホーム (H 3. 8. 1)		781.90	20	
	友愛デイサービスセンター (センター長 木村浩二)	身障デイサービス (H 4. 4. 1)		321.76	(20)	
	友愛ホーム (園長 金井 博)	養護老人ホーム (S31.12.24)		2,086.59	70	
	砧ホーム (園長 宮崎 浩)	特別養護老人ホーム (H 4. 4. 1)		1,865.56	60	
	砧デイサービスセンター (センター長 宮崎 浩)	老人デイサービス (H 4. 4. 1)		540.89	(60)	
	砧地域包括支援センター (センター長 山本恵理)	老人居宅介護等事業 (H18. 4. 1)	〒157-0073 東京都世田谷区砧 5-8-18	—	—	
	東京聴覚障害者支援センター (所長 高橋秀志)	障害者支援施設 (S40. 7. 25)	〒174-0056 東京都板橋区志村 2-19-5 (03-3967-0051)	(913.78)	(980.47)	30 (10)
	友愛荘 (園長 田城利明)	特別養護老人ホーム (S49.11. 1)	〒194-0203 東京都町田市西町989 (0427-93-7530)	4,550.80	2,059.80	78
港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター (施設長 松本光正)	(H10. 4. 1) 地域活動支援センター	〒105-0014 東京都港区芝 1-8-23 (03-5439-2511)	(4380.06)	(24321.61)	(40)	
こども療育 パオ (施設長 田口美登里)	療育発達相談					
工房アミ (施設長 太田政美)	生活介護事業所					
みなとワークアクティ (施設長 藤田康子)	就労継続支援B型事業所					
計			10,639.35 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	378 (176)	
事業所	第一作業所(友愛書房) (責任者 常務理事 金井 博)	身障法第22条の 売店 (S25.12. 1)	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2 中央合同庁舎5号館B1F (03-3591-4822)			
	砧介護保険サービス (センター長 宮崎 浩)	居宅介護支援 事業 (H12. 4. 1)	〒157-0073 東京都世田谷区砧 3-9-11 (03-3416-3164)			
合計			10,505.05 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	378 (176)	

備考1 土地・建物欄の()は指定管理施設の面積

備考2 東京聴覚障害者支援センターの土地と建物は東京都所有のため()で記載している。

備考3 定員欄の()は通所定員